

(4) 基礎率

①基礎率の元となる統計の概要と算定方法等

基礎率の種類	ア. 元となる統計 及び イ. 基礎率設定の際に使用した他のデータ [アは、内容(差別、集計項目、集計対象等)、使用年度、出所、抽出方法等、イは、内容、出所等]	ウ. 設定方法 及び オ. 年度等により用いる率を変えている場合、その方法 [概要(考え方と方法)、加工・補正・補完等の方法]	エ. 推計における使用方法 [概要(どのようなデータにどう使い何を算出するか)]	カ. 前回との変更点
総脱退力	ア. 元となる統計 被保険者種別・年齢別 被保険者数(平成10～13年度末) 被保険者種別・年齢別 再加入者数(平成11～13年度) 被保険者種別・年齢別 新規加入者数(平成11～13年度) イ. 基礎率設定の際に使用した他のデータ	ウ. 設定方法 被保険者種別・年齢別に3年度平均で捉えた年度中脱退者数(前年度末の被保険者数に当年度中の新規加入者数及び再加入者数を加え当年度末の被保険者数を控除したものを)を年度平均被保険者数で除したものを平滑化 オ. 年度等により用いる率を変えている場合、その方法	前年度末の被保険者数から当年度中の総脱退者数を推計	
生存脱退力	ア. 元となる統計 なし イ. 基礎率設定の際に使用した他のデータ 総脱退力 死亡脱退力 障害年金発生力	ウ. 設定方法 総脱退力－死亡脱退力－障害年金発生力 オ. 年度等により用いる率を変えている場合、その方法	前年度末の被保険者数から当年度中の生存脱退者数を推計	
死亡脱退力	ア. 元となる統計 被保険者種別・年齢別 被保険者数(平成10～13年度末) 被保険者種別・年齢別 死亡による被保険者資格喪失者数(平成11～13年度) イ. 基礎率設定の際に使用した他のデータ 生命表	ウ. 設定方法 被保険者種別・年齢別に3年度平均で捉えた年度中死亡被保険者数を年度平均被保険者数で除したものを平滑化 オ. 年度等により用いる率を変えている場合、その方法	前年度末の被保険者数から当年度中の死亡脱退者数を推計	
障害年金発生力	ア. 元となる統計 被保険者種別・年齢別 被保険者数(平成10～13年度末) 被保険者種別・年齢別 障害厚生年金新規裁定者数(平成11～13年度) イ. 基礎率設定の際に使用した他のデータ	ウ. 設定方法 被保険者種別・年齢別に3年度平均で捉えた年度中障害厚生年金新規裁定者数を年度平均被保険者数で除したものを平滑化 オ. 年度等により用いる率を変えている場合、その方法	前年度末の被保険者数から当年度中の障害脱退者を推計	
標準報酬指数	ア. 元となる統計 被保険者種別・年齢別 被保険者数(平成11～13年度末) 被保険者種別・年齢別 被保険者の標準報酬月額(平成11～13年度末) イ. 基礎率設定の際に使用した他のデータ ボーナス支給割合	ウ. 設定方法 3年度平均の被保険者種別・年齢別の標準報酬月額の平均に性・年齢別のボーナス支給割合を乗じて設定 オ. 年度等により用いる率を変えている場合、その方法 平成14年度の推計を行う際のみ性・年齢別のボーナス割合を乗じない標準月額ベースのものを使用	年齢の変化に伴う賃金の変動を推計	

基礎率の種類	ア. 元となる統計 及び イ. 基礎率設定の際に使用した他のデータ [アは、内容(表別、集計項目、集計対象等)、使用年度、出所、抽出方法等、イは、内容、出所等]	ウ. 設定方法 及び オ. 年度等により用いる率を変えている場合、その方法 [概要(考え方と方法)、加工・補正・補完等の方法]	エ. 推計における使用方法 [概要(どのようなデータにどう使い何を算出するか)]	カ. 前回との変更点
ボーナス支給割合	ア. 元となる統計 イ. 基礎率設定の際に使用した他のデータ 賃金構造基本統計調査	ウ. 設定方法 性・年齢別に年間賞与その他特別給与額をきまて支給する現金給与額を1.2倍したもので除して設定 オ. 年度等により用いる率を変えている場合、その方法	平成15年度に総報酬制が導入される際に、標準報酬を月額ベースから年額ベースに変換する	
年金失権率	ア. 元となる統計 被保険者種別・年金種別・年齢別 老齢年金受給権者数(平成10～13年度末) 被保険者種別・年金種別・年齢別 老齢年金新規裁定者数(平成11～13年度) イ. 基礎率設定の際に使用した他のデータ 生命表	ウ. 設定方法 被保険者種別・年金種別・年齢別に3年度平均で捉えた年度中失権者数を年度平均受給権者数で除したものを平滑化 オ. 年度等により用いる率を変えている場合、その方法 将来推計人口における将来の死亡率改善と同程度の改善を年度ごとに性・年齢別に行う	前年度末の受給権者数から当年度中の失権者数を推計	
有遺族率	ア. 元となる統計 イ. 基礎率設定の際に使用した他のデータ 年金受給権者1人当たり加給対象者数割合(老齢年金) 国勢調査 健康保険被保険者実態調査(平成12、13年)	ウ. 設定方法 妻へは国勢調査における配偶関係から有配偶率を作成し設定、夫へは老齢年金の年金受給権者1人当たり加給対象者数割合及び国勢調査における配偶関係から有配偶率を作成し設定、子については健康保険被保険者実態調査における子の扶養率から設定 オ. 年度等により用いる率を変えている場合、その方法	死亡した被保険者または受給権者の数に乘じることにより、遺族年金の新規裁定者数を推計	
有遺族率 (障害厚生年金受給権者死亡)	ア. 元となる統計 イ. 基礎率設定の際に使用した他のデータ 年金受給権者1人当たり加給対象者数割合(障害年金)	ウ. 設定方法 障害年金の年金受給権者1人当たり加給対象者数割合から設定 オ. 年度等により用いる率を変えている場合、その方法	死亡した受給権者数に乘じることにより、遺族年金の新規裁定者数を推計	
被保険者であった者と遺族厚生年金受給権者の年齢相関	ア. 元となる統計 被保険者種別・被保険者であった者の死亡時年齢別 遺族年金新規裁定者の平均年齢(平成11～13年度) イ. 基礎率設定の際に使用した他のデータ	ウ. 設定方法 3年度平均の被保険者種別・被保険者であった者の死亡時年齢と遺族年金新規裁定者の平均年齢から設定 オ. 年度等により用いる率を変えている場合、その方法	死亡した被保険者または受給権者の年齢から、遺族年金の新規裁定者の年齢を推計	

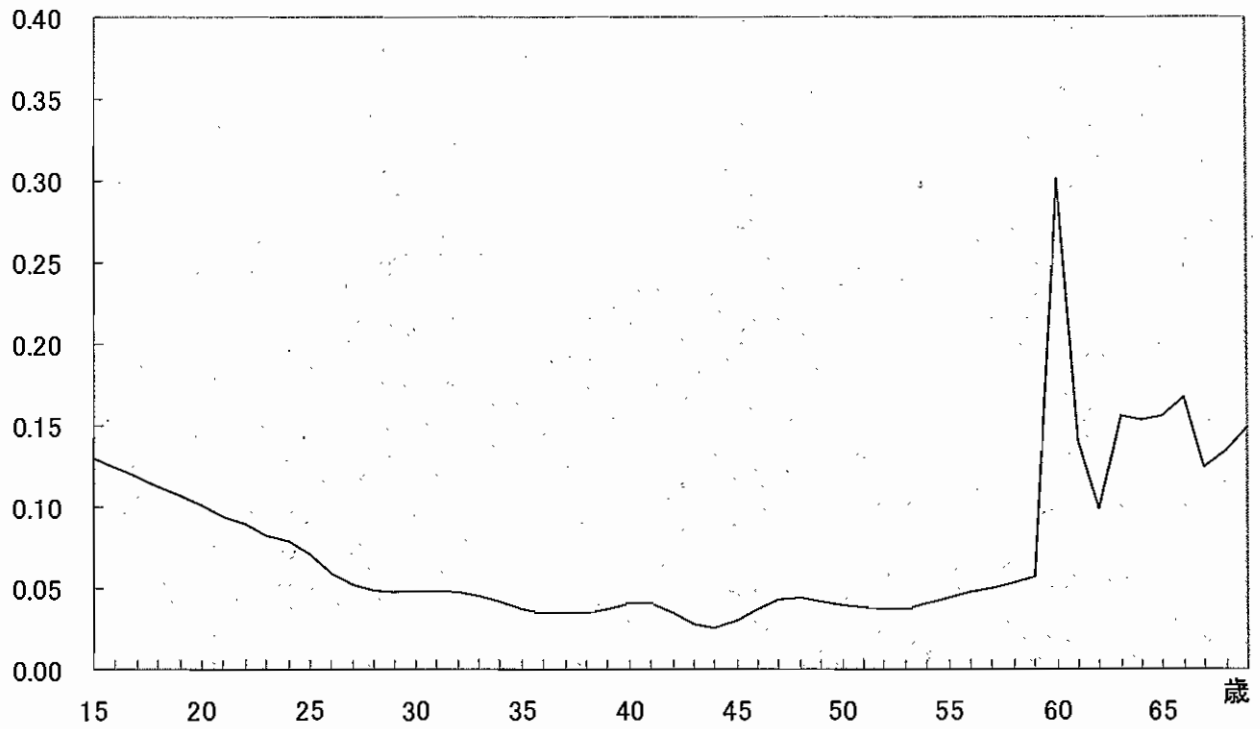
基礎率の種類	ア. 元となる統計 イ. 基礎率設定の際に使用した他のデータ [アは、内容(表別、集計項目、集計対象等)、使用年度、出所、抽出方法等、イは、内容、出所等]	ウ. 設定方法 オ. 年度等により用いる率を変えている場合、その方法 [概要(考え方と方法)、加工・補正・補完等の方法]	エ. 推計における使用方法 [概要(どのようなデータにどう使い何を算出するか)]	カ. 前回との変更点
年金受給権者1人当たり加給対象者数割合	ア. 元となる統計 被保険者種別・年金種別・年齢別 受給権者数(平成12、13年度末) 被保険者種別・年金種別・年齢・続柄別 加給年金対象者数(平成12、13年度末) イ. 基礎率設定の際に使用した他のデータ	ウ. 設定方法 2年度平均の被保険者種別・年金種別・年齢別年金受給権者数に対する加給年金対象者数を除いたものを続柄別に設定 オ. 年度等により用いる率を変えている場合、その方法	各年度末の受給権者に乗じることにより、加給年金が支給される者の数を推計	
在職老齢年金受給額割合(60～64歳)	ア. 元となる統計 被保険者種別・老齢通老別・年齢別 老齢在職年金受給権者年金額(平成13年度末) 被保険者種別・老齢通老別・年齢別 老齢在職年金受給者年金額(平成13年度末) イ. 基礎率設定の際に使用した他のデータ	ウ. 設定方法 被保険者種別・在職通老別・年齢別に年金受給者年金額を年金受給権者年金額で除いたものに、一律2割カット廃止に伴う影響を織り込んで設定 オ. 年度等により用いる率を変えている場合、その方法 定額部分の支給開始年齢の引き上げられるコーホートについてはその影響を織り込んで設定 平成16年度までは一律2割カット廃止に伴う影響を織り込んでいない	各年度末の在職老齢年金受給権者の年金額に乗じることにより、支給停止される部分を除いた年金額を推計	
在職老齢年金受給額割合(65～69歳)	ア. 元となる統計 老齢通老別・年齢別 老齢在職年金受給権者年金額(平成14年度末・一般男子及び船員) 老齢通老別・年齢別 老齢在職年金受給者年金額(平成14年度末・一般男子及び船員) 年齢別・標準報酬階級別 被保険者数(平成14年度末・女子) 被保険者種別 平均年金額(平成13年度末・女子) イ. 基礎率設定の際に使用した他のデータ	ウ. 設定方法 一般男子及び船員については、65歳の年金受給者年金額を年金受給権者年金額で除して設定 女子については、平均年金額と、65～69歳の標準報酬月額分布を比較して設定 オ. 年度等により用いる率を変えている場合、その方法 平成14年度に65歳となるコーホートから適用	各年度末の在職老齢年金受給権者の年金額に乗じることにより、支給停止される部分を除いた年金額を推計	
在職老齢年金受給額割合(70歳以上)	ア. 元となる統計 被保険者種別 平均年金額(平成13年度末) イ. 基礎率設定の際に使用した他のデータ 健康保険被保険者実態調査(平成13年)	ウ. 設定方法 平均年金額と、健康保険被保険者実態調査における70歳以上の標準報酬月額の分布を比較して設定 オ. 年度等により用いる率を変えている場合、その方法 平成19年度に70歳となるコーホートから適用	各年度末の在職老齢年金受給権者の年金額に乗じることにより、支給停止される部分を除いた年金額を推計	
障害厚生年金の等級割合	ア. 元となる統計 障害厚生年金の等級別 障害年金受給権者数(平成11～13年度末) イ. 基礎率設定の際に使用した他のデータ	ウ. 設定方法 3年度平均の障害厚生年金の等級別の受給者構成割合から設定 オ. 年度等により用いる率を変えている場合、その方法	障害脱退した者の数に乗じることにより、障害厚生年金の等級別の新規裁定者数を推計	

基礎率の種類	ア. 元となる統計 及び イ. 基礎率設定の際に使用した他のデータ [アは、内容(性別、集計項目、集計対象等)、使用年度、出所、抽出方法等、イは、内容、出所等]	ウ. 設定方法 及び オ. 年度等により用いる率を変えている場合、その方法 [概要(考え方と方法)、加工・補正・補完等の方法]	エ. 推計における使用方法 [概要(どのようなデータにどう使い何を算出するか)]	カ. 前回との変更点
再加入率	ア. 元となる統計 被保険者種別・年齢別 新規加入者数(平成11～13年度) 被保険者種別・年齢別 再加入者数(平成11～13年度) イ. 基礎率設定の際に使用した他のデータ	ウ. 設定方法 被保険者種別・年齢別に3年度平均で捉えた年度中再加入者数を年度中の新規加入者数と再加入者数の和で除したものを平滑化 オ. 年度等により用いる率を変えている場合、その方法	当年度中に新規加入または再加入する者の総数から再加入する者の数を推計	
遺族厚生年金受給権者である妻の有り割合	ア. 元となる統計 年齢別 遺族年金受給権者のうち妻の数(平成12、13年度末) 年齢別 遺族年金受給権者のうち子あり妻の数(平成12、13年度末) イ. 基礎率設定の際に使用した他のデータ	ウ. 設定方法 2年度平均の年齢別に遺族年金受給権者のうち子あり妻の数を遺族年金受給権者のうち妻の数で除して設定 オ. 年度等により用いる率を変えている場合、その方法	遺族厚生年金受給権者の年金額に乘じることにより、遺族基礎年金の額、中高齢寡婦加算または経過的寡婦加算が支給されない額を推計	
再加入者及び新規加入者の平均標準報酬	ア. 元となる統計 被保険者種別・年齢別 被保険者数(平成13年度末) イ. 基礎率設定の際に使用した他のデータ 標準報酬指数	ウ. 設定方法 被保険者種別別に標準報酬指数を平成13年度末の年齢別被保険者数により加重平均したものが平成13年度末の標準報酬月額平均の水準となるように設定 オ. 年度等により用いる率を変えている場合、その方法 毎年度、賃金上昇率で改定	当年度中に新規加入または再加入する者の標準報酬額を推計	

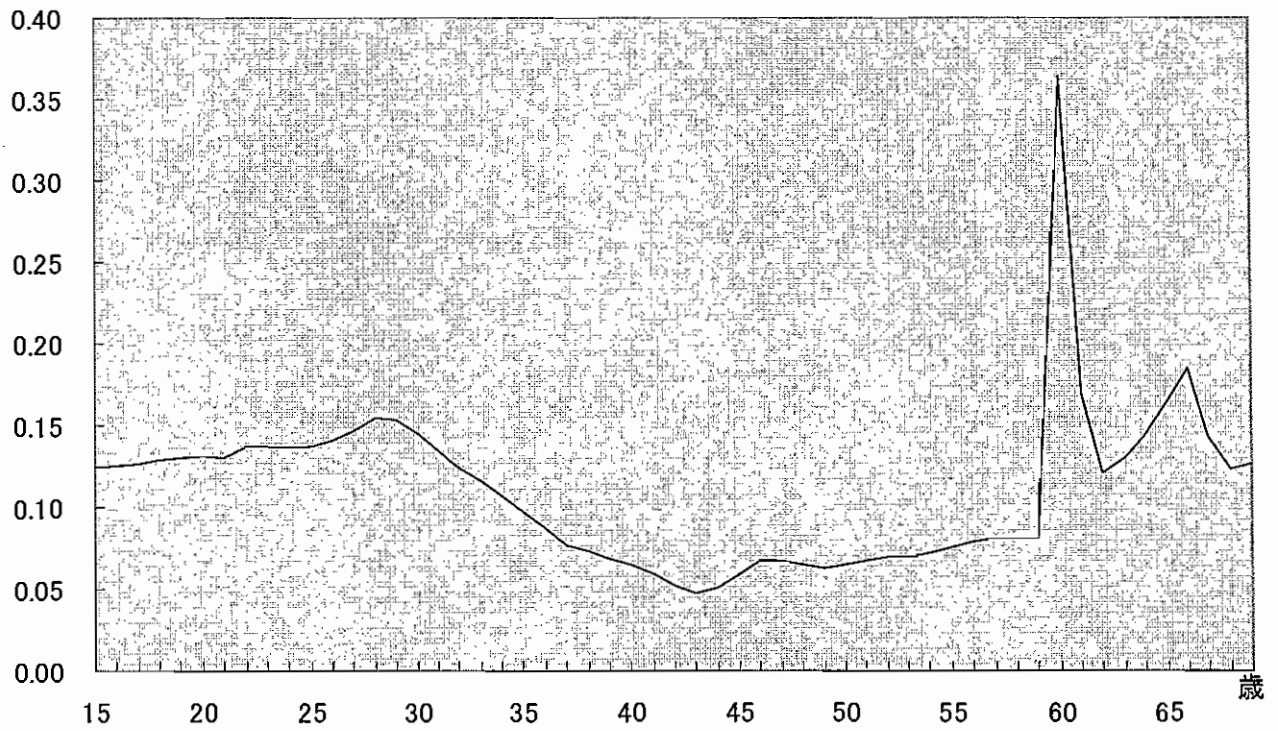
※基礎率(経済的要素)については、参考資料1を参照。

②主な基礎率 〈グラフ〉

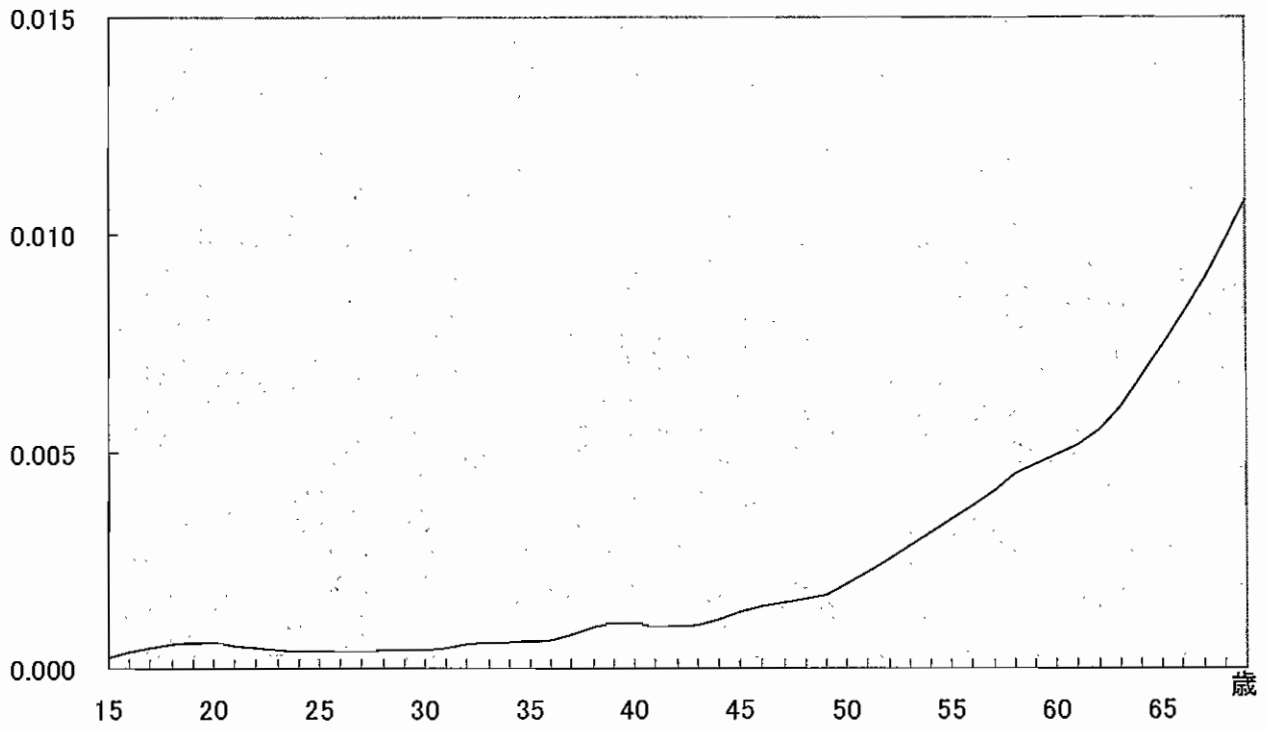
厚生年金総脱退力(男子)



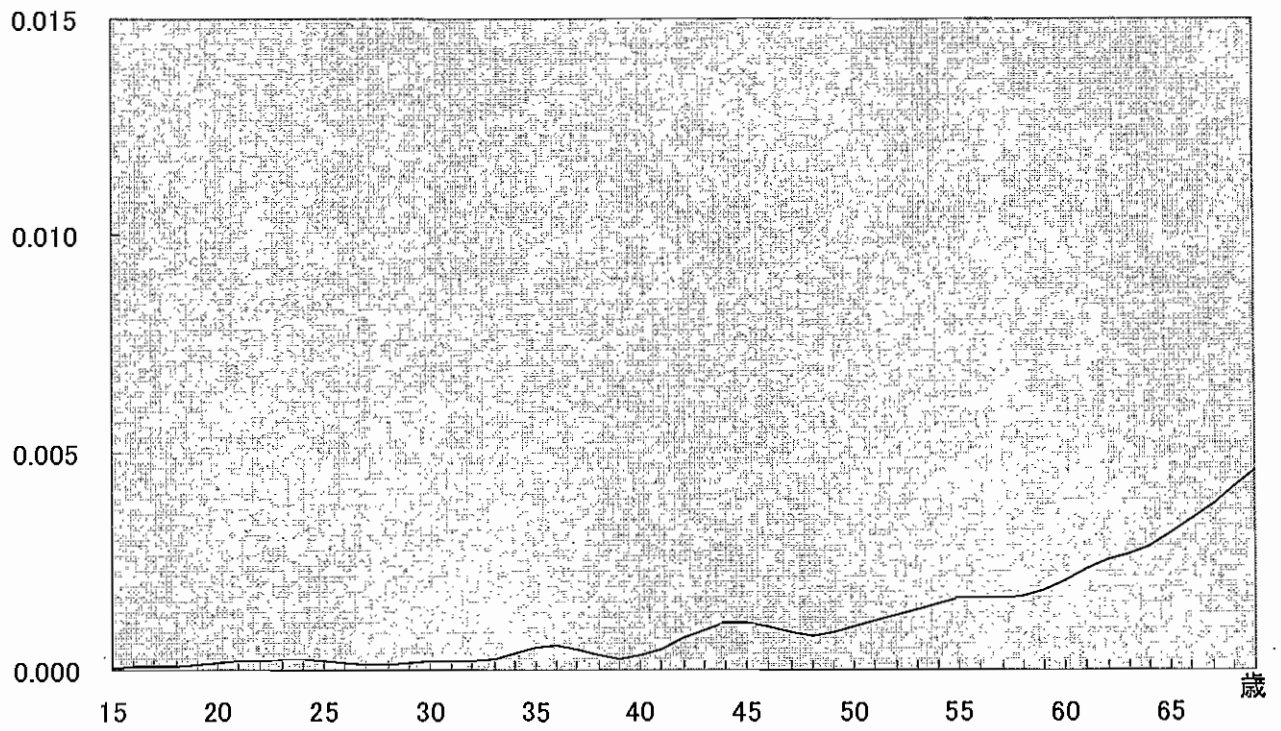
厚生年金総脱退力(女子)



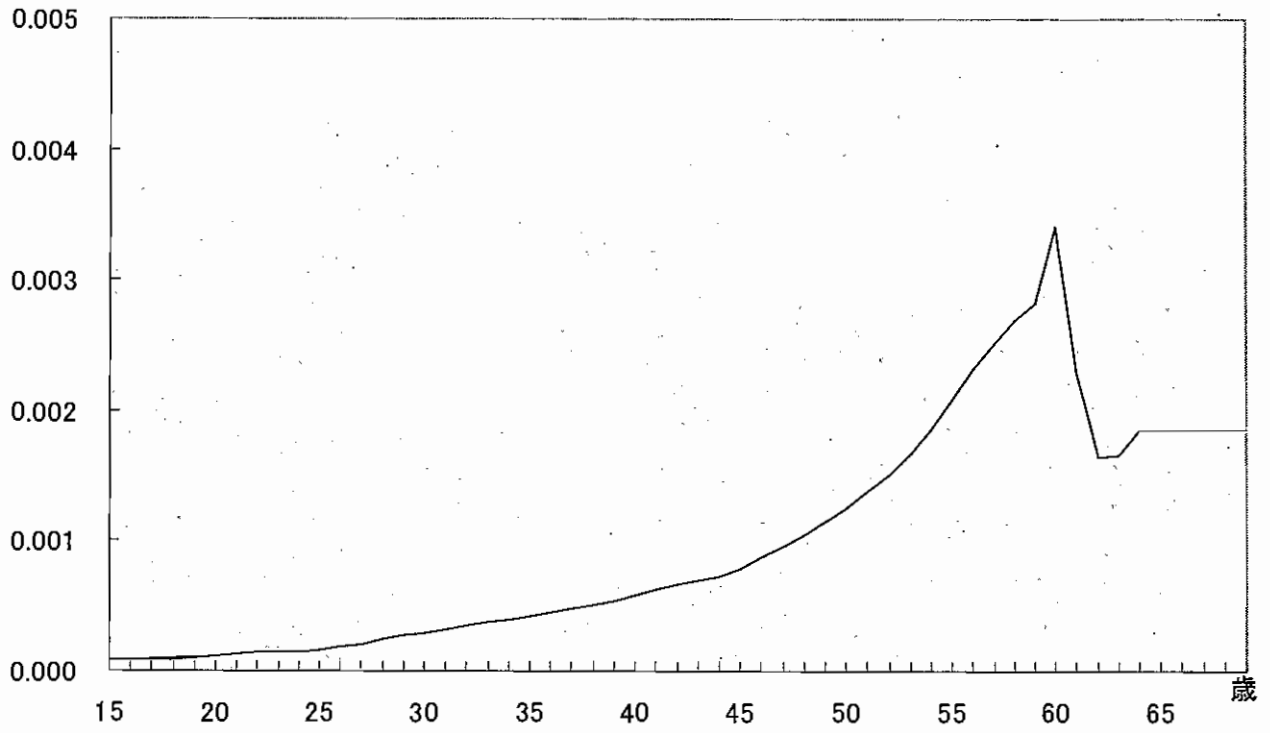
厚生年金死亡脱退力(男子)



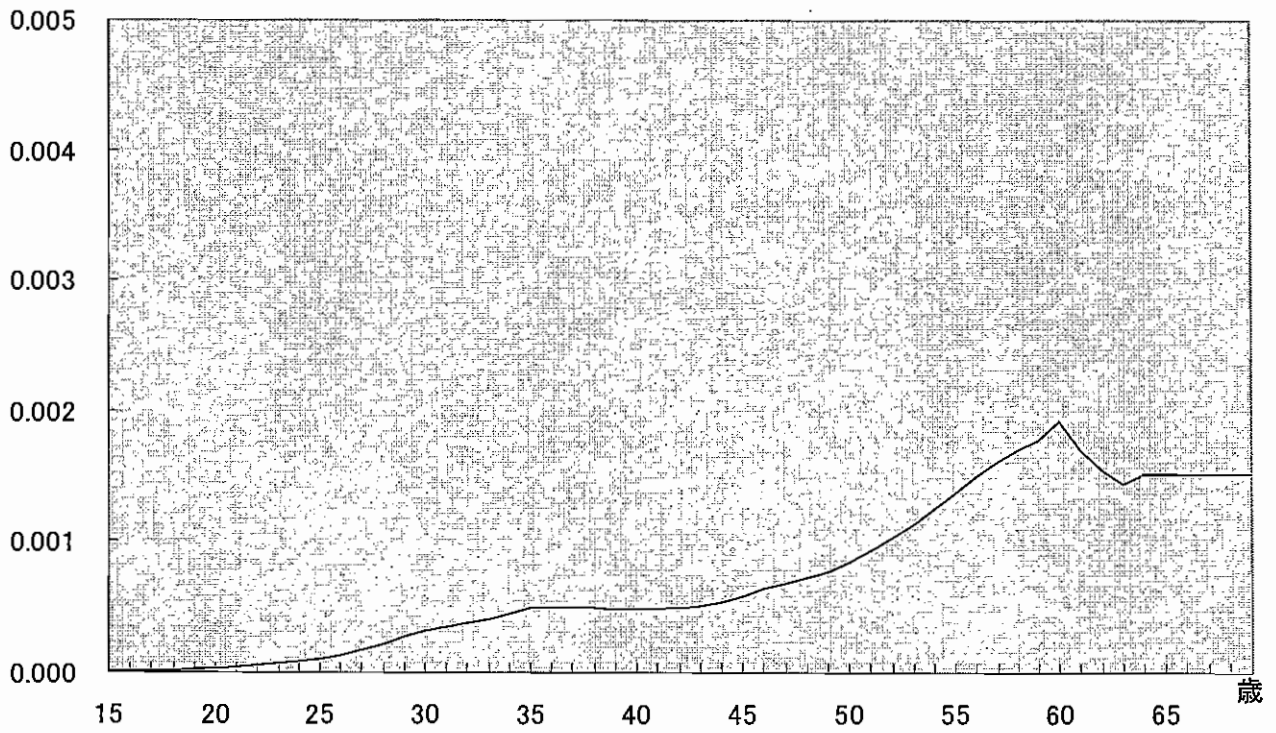
厚生年金死亡脱退力(女子)



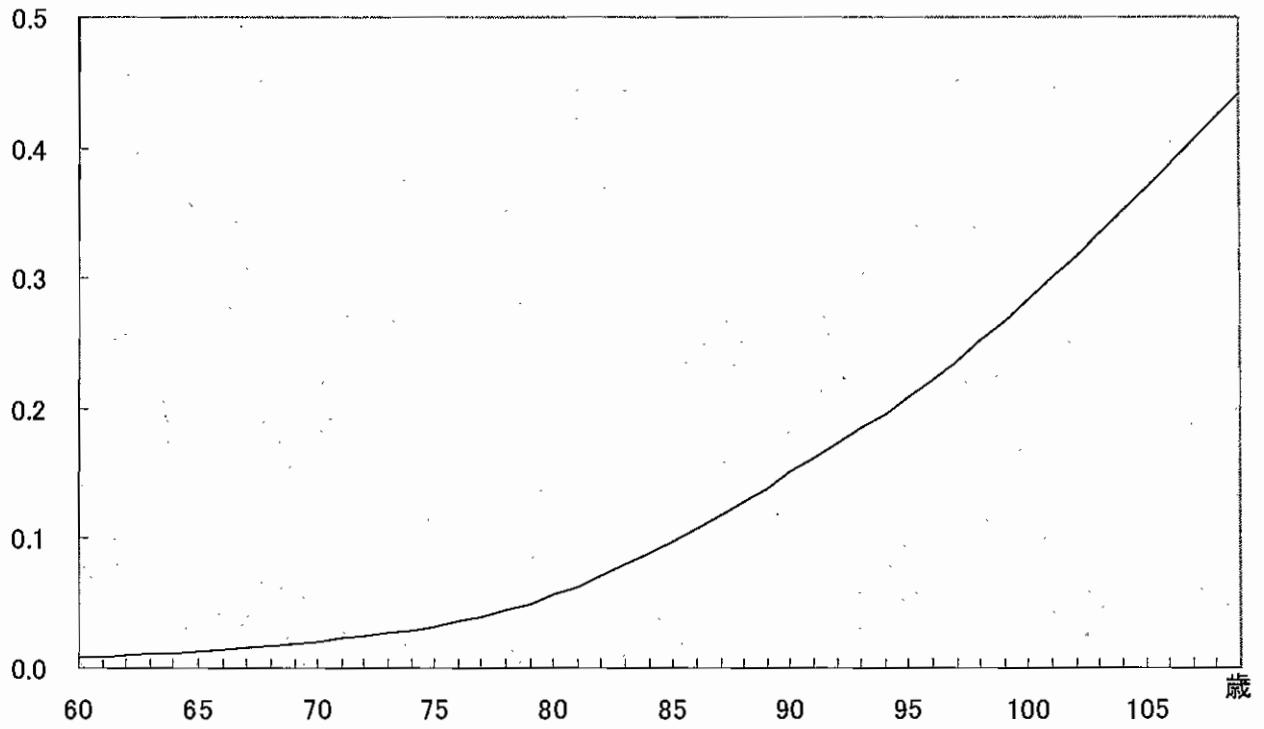
厚生年金障害年金発生力(男子)



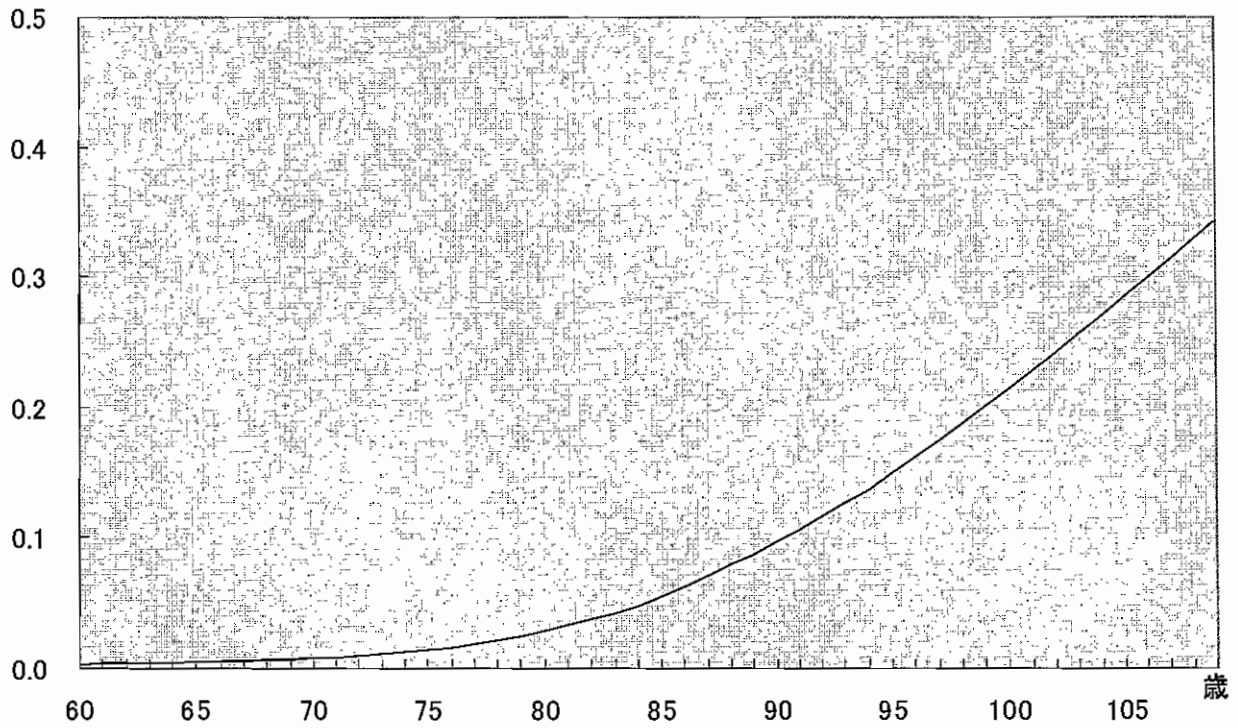
厚生年金障害年金発生力(女子)



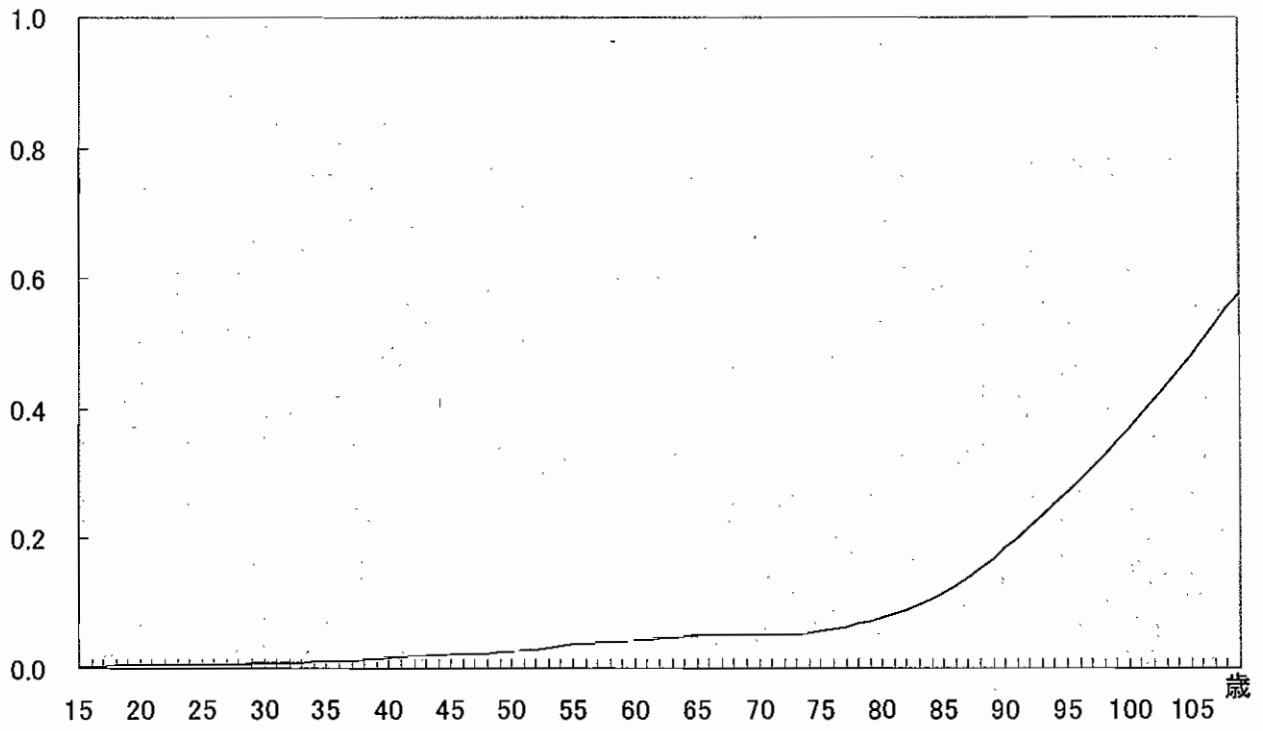
厚生年金老齡年金失權率(男子)



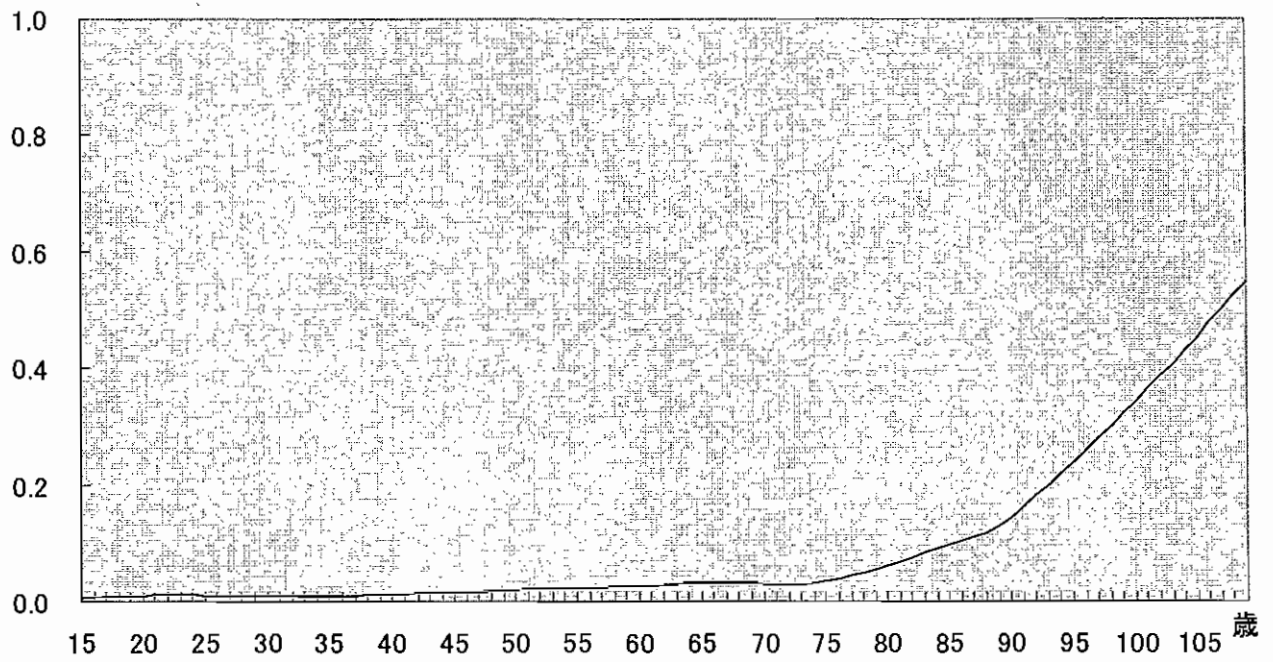
厚生年金老齡年金失權率(女子)



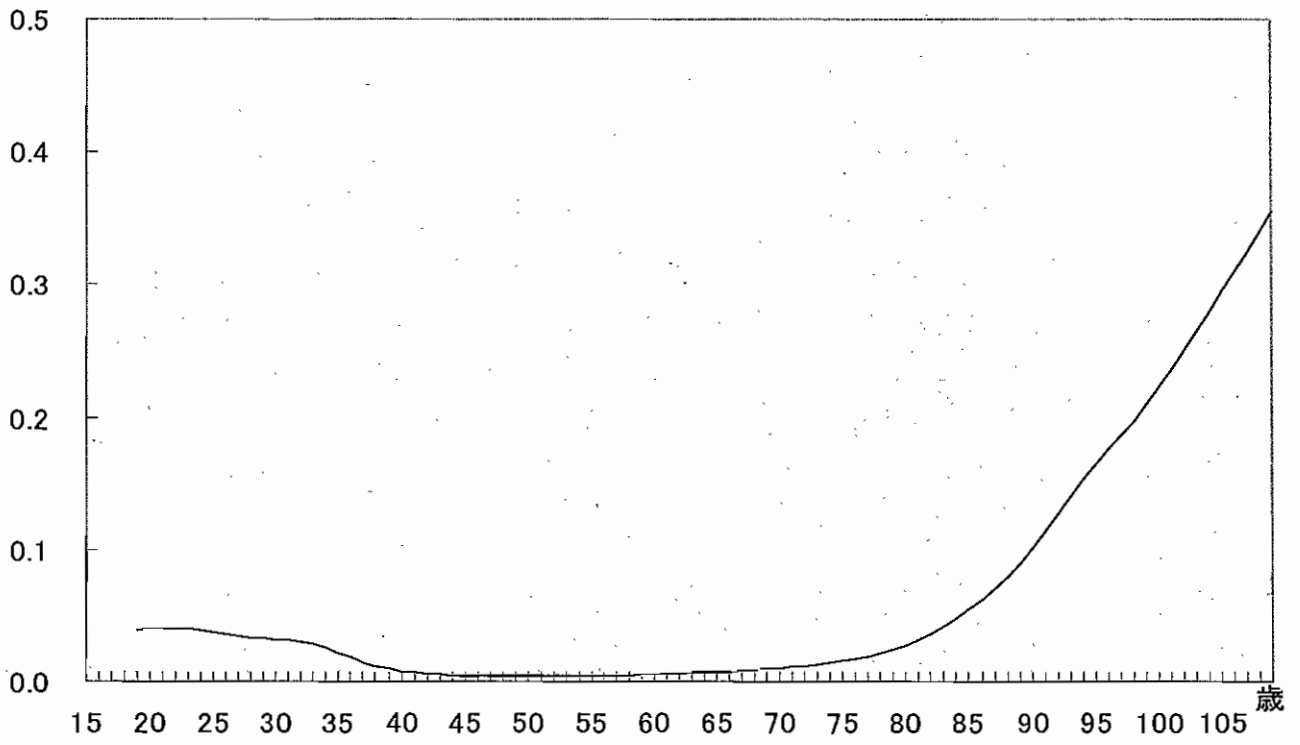
厚生年金障害年金失権率(男子)



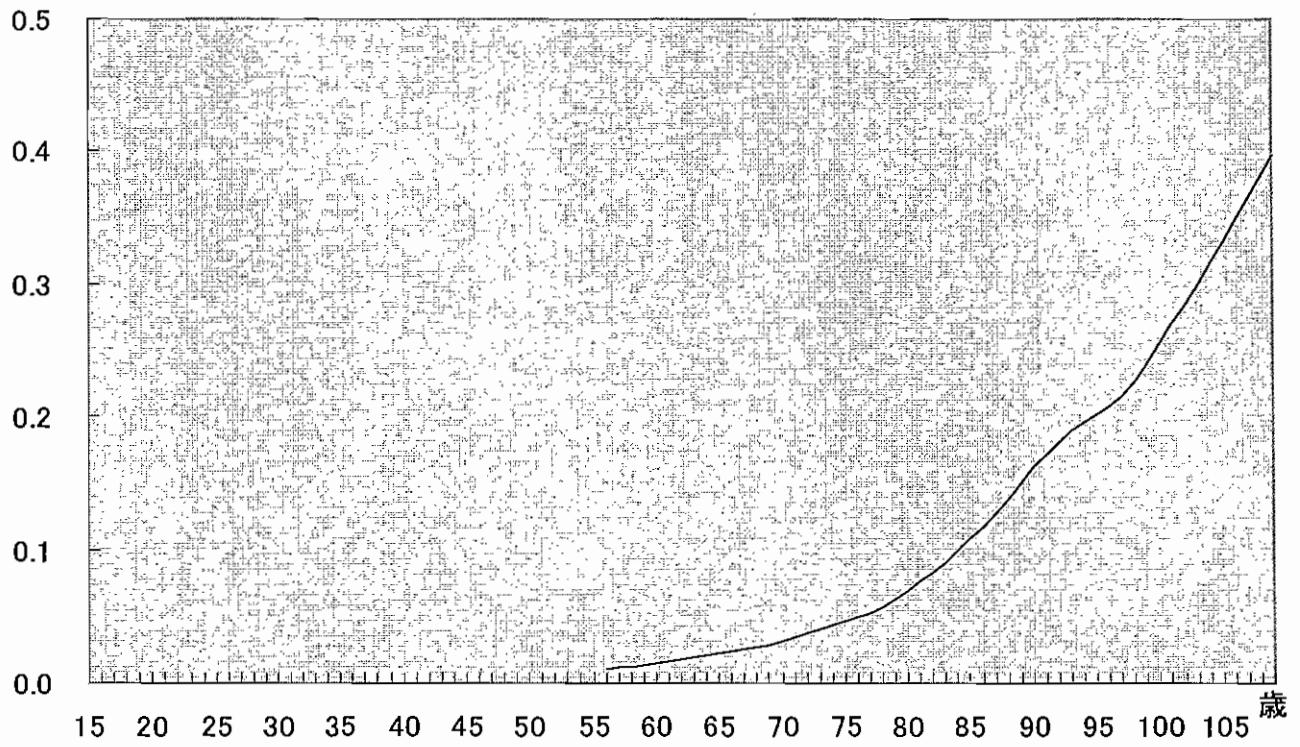
厚生年金障害年金失権率(女子)



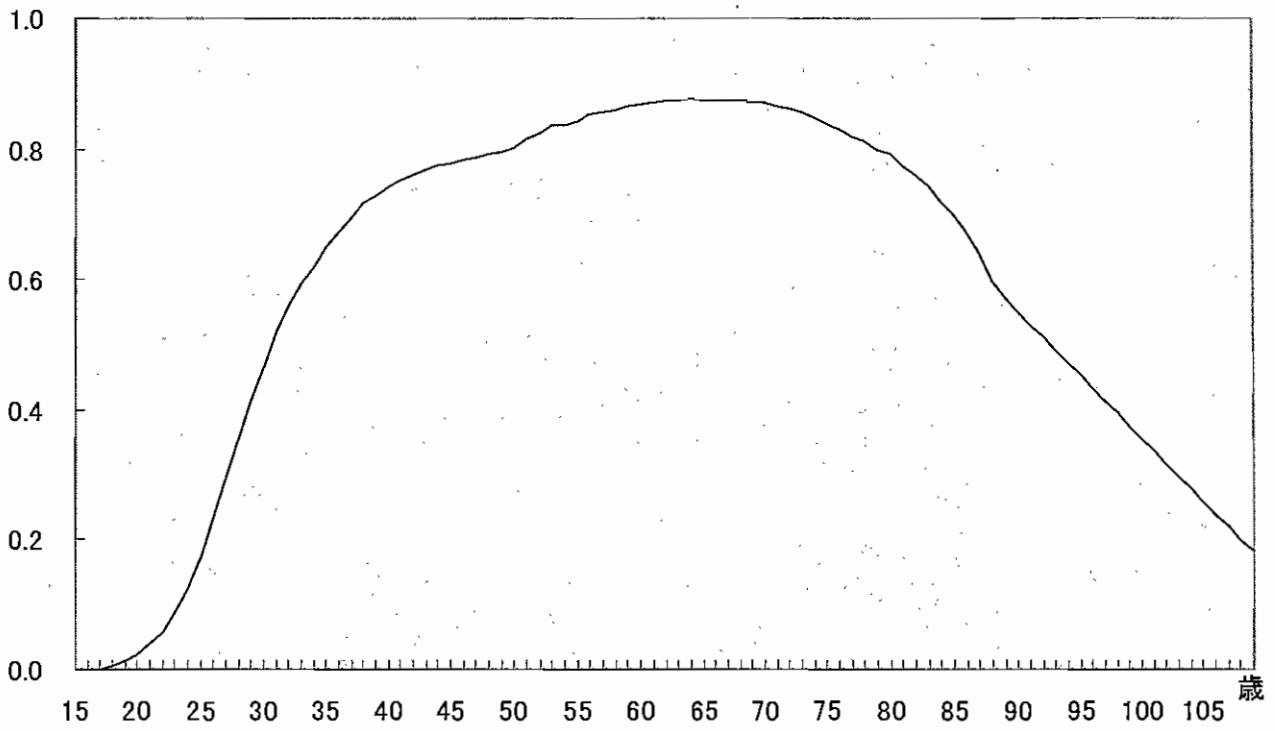
厚生年金遺族年金失権率(妻)



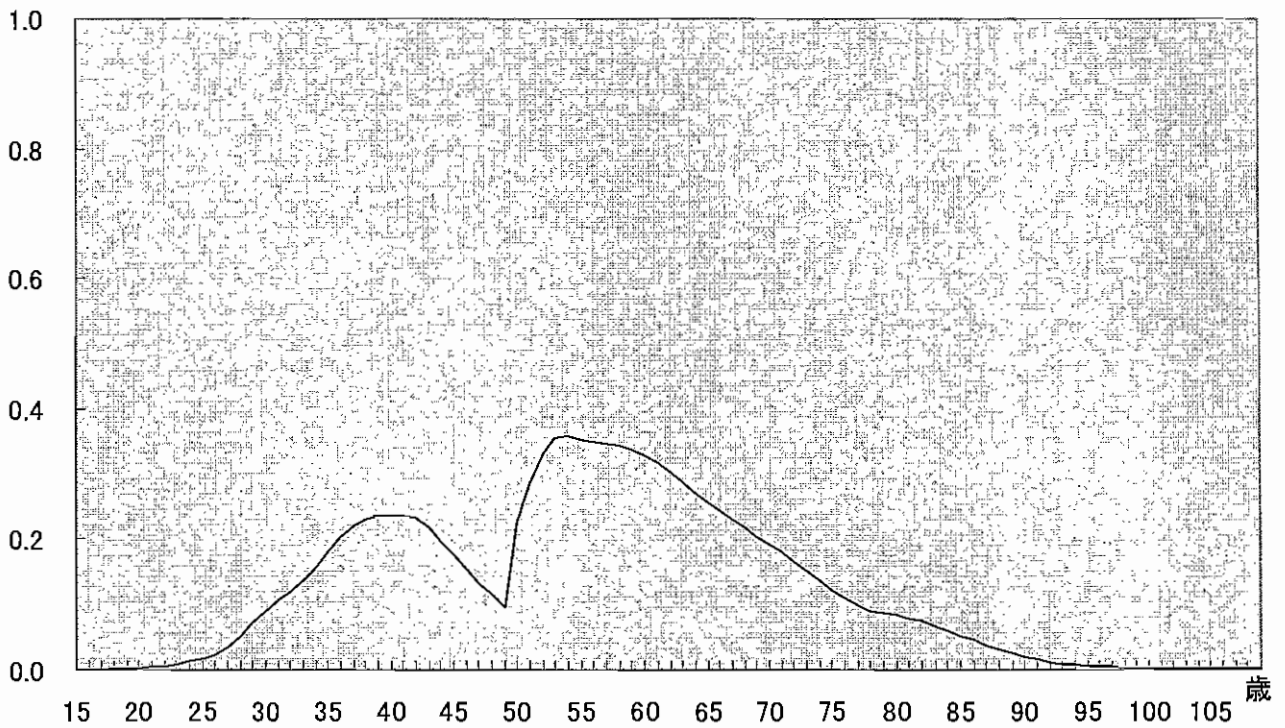
厚生年金遺族年金失権率(夫)



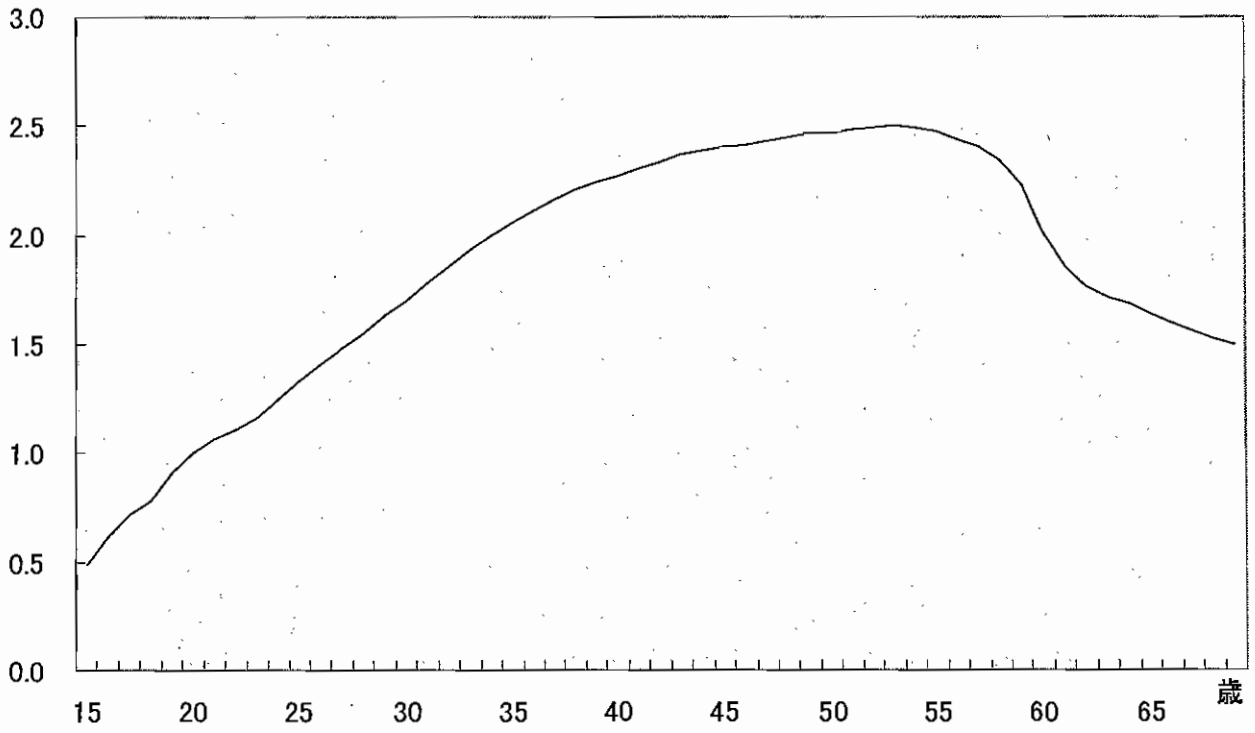
厚生年金遺族年金発生割合(妻)



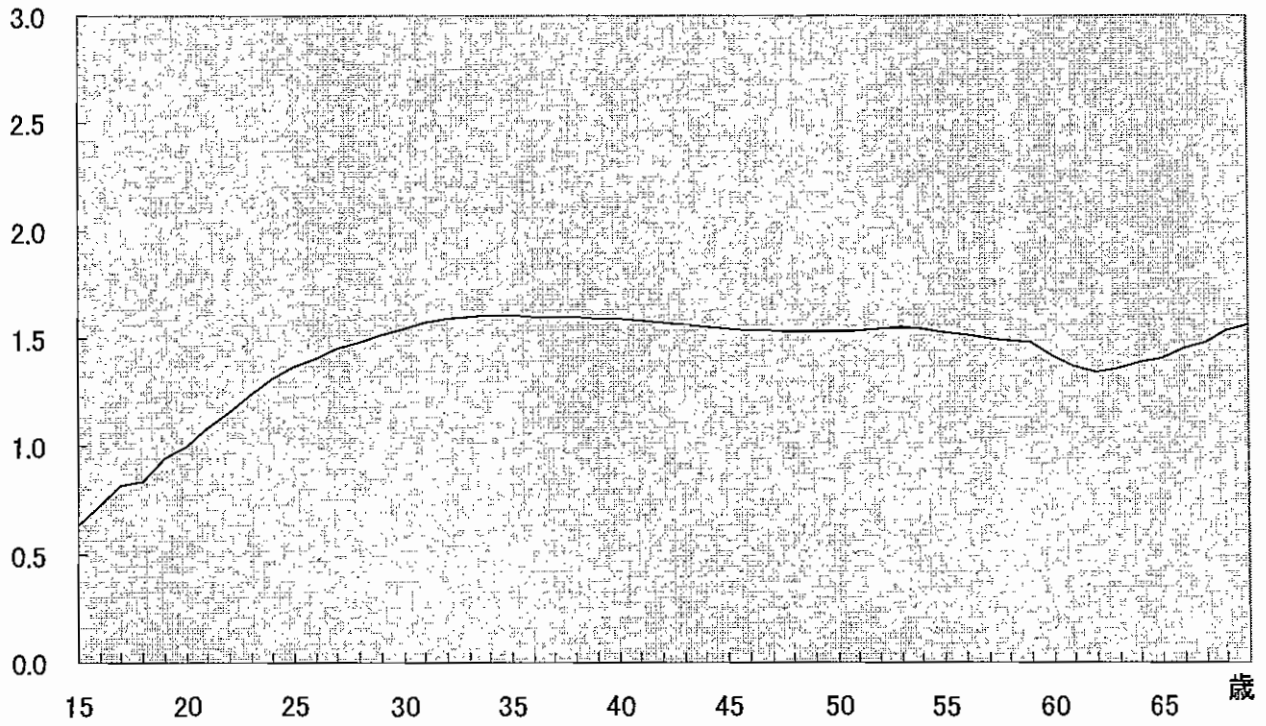
厚生年金遺族年金発生割合(夫、子)



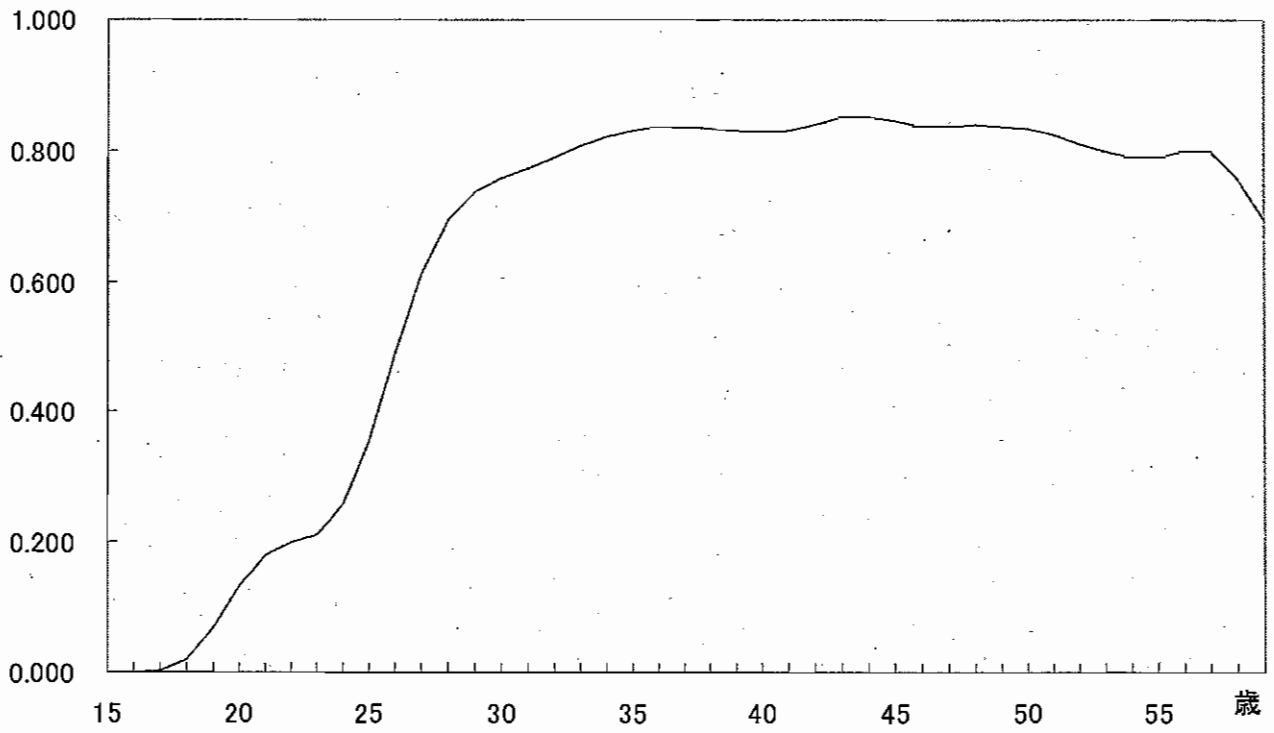
厚生年金標準報酬指数(男子)



厚生年金標準報酬指数(女子)



再加入率(男子)



再加入率(女子)

